

令和3年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(福)豊立会	代表者	鈴木 俊孝	法人・事業所の 特徴	日々笑顔にあふれたアットホームな雰囲気施設の施設です。通いであっても自宅へ送ったら支援が終わりではなく、24時間ご利用者様の状況を把握して、必要な介護が出来るように支援しております。また、宿泊や訪問も顔なじみの職員が支援しており、お互いの関係も深まり安心へと繋がっています。さらにご家族様と、情報を共有することでご利用者様の最適な支援へと繋がっています。季節に合わせたイベントも多く、苑庭で栽培した野菜を収穫して食材にするなど楽しみのある施設となっています。ご利用者様からの意見を取り入れ、活動に活かし、一人ひとりに合わせた日常生活動作の向上が図れるように支援しております。朝の訪問や夕食を食べてからの送迎、急な宿泊など可能な限り柔軟に対応し、住み慣れた地域でなるべく長く暮らせるための支援を行うと共に、ご家族様の介護負担の軽減を図れるように努めております。
事業所名	まんざきの家玲光苑	管理者	鈴木 俊孝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	9人	1人	人	人	1人	人	人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	コロナ禍の為、スタッフが集まったの意見交換が行えず、チームとして方向性の統一が出来ていないとの意見も寄せられた。書面を活用した定例会議の開催、朝礼や申し送りノートを活用して情報共有に努める。	チームケアを実践するための処遇の統一やその時に必要な支援を提供できるよう、朝礼時の連絡や申し送りノートを活用した。また、書面会議での意見交換や年間の研修計画に沿った研修資料を活用することでサービスの質の向上に努めることができた。	・事業所自己評価の「できていない点」に記載がある「申し送りノートに記述されていることが申し送り出来ておらず」とある点について改善をお願いします。	事業所自己評価の中で職員の研修に行く機会が失われているとの声も多く、オンライン対応している研修への参加も取り入れ、コロナ禍にあってもサービスの質の向上に努める。
B. 事業所の しつらえ・環境	事業所敷地内や周辺環境整備を担当チームを中心に季節ごと実施する。また、館内の換気・消毒を徹底し、実施の記録をもとに検証する。引き続き新型コロナウイルス感染防止に取り組んでいく。	感染防止対策として業務日誌に消毒・換気の実施を記録。また、ご利用者の利用状況についても送迎車両の乗車記録やデイルームでの席配置を記録することで、感染者発生時の初動対応策としている。	・コロナ対策で困難な点が多いと思います。	介護事業所での感染クラスターも続いており引き続き、消毒・換気の徹底、状況に応じた入館制限を行うと共に職員、ご利用者、ご家族の健康状態の確認を行い感染防止に取り組んでいく。
C. 事業所と地域の かかわり	次年度も地域の行事やイベントの中止が発表されており、事業所と地域との人的な直接交流は難しいなか、広報誌やブログなどで常に施設の活動状況を地域に向けて発信していく。	感染防止の為、中止となっていた地域主催の散策行事が昨年末に再開。職員が参加させていただき、久しぶりに交流を持つ機会となった。行事では出発前の準備体操を担当し、地域の方や他介護施設の方とも交流を深める事ができた。		各種イベントや行事の自粛が続く中、地域の行事については、一部再開し始めています。開催の情報を集め積極的に参加することで地域との連携や施設の情報発信の場として活用していく。
D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み	通い利用の送迎の際、ご家族や近隣住民の方々と関わりを持ち、ご本人の困りごとの気づきの機会とする。	コロナ禍の為、積極的に関わりを持つことや情報交換に向かうことは出来なかったが、電話やメールなどを用いてご家族や病院のソーシャルワーカーから情報を得て課題となる状況の解決策とすることが出来た。	・コロナ禍で大変な点も多いと思います。 ・「地域の方を交えた会議が行われていませるか」については形を変えて良く行われています。 ・コロナ禍の為、仕方がないですね。	感染防止の為、地域の方との積極的な関わりを持つことが出来ない状況が続くが、地域包括支援センターなどから情報をいただき、ご本人の困りごとの状況の把握や地域の隠れた困りごとについても気づけるよう取り組んでいく。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	実際に集まったの会議は難しいが、各回の資料配布の際にアンケートも用意し、各テーマでのご意見を頂き、紙面での会議開催として取り組む。	今年度の運営推進会議もコロナ禍の為、開催中止となり資料を配布して代替え策としているが外部評価を依頼する際などに意見を伺う事が難しくなっている。	・直接、会議に出ていませんが良くなされてる。 ・配付される資料が具体的で分かり易い。	外部評価などの資料については「まんざきムービー」のような映像資料を配付する事で実際にご覧頂けない施設の運営状況を具体的にお伝えしていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	災害の際、事業を継続できるよう、マニュアルや物品の整備を行う。避難訓練については火災想定だけではなく、地震や水害などを想定し、実際に避難所まで移動する訓練も行う。	コロナ禍の為、地域の方を招いた避難訓練は中止となったが、事業所主催の防火避難訓練は実施することができた。また、地域主催の防災訓練も2年ぶりに実施され職員が参加することが出来た。		地震・風水害の事業継続計画（BCP）について定期的に見直しを行い最新の情報と状況に対応させていく。また、地域の方へも公開することで事業所の取り組みを理解していただく。